



「全ての子供が安心して楽しく学ぶために」 ～特別支援教育の大切さ～

国分北小学校 川野 浩明

学校には、いろいろな子供たちがいます。勉強が得意な子もいれば、少しゆっくりと学ぶ子、友達との関わりが苦手な子もいます。国分北小学校では、どの子も安心して学校生活を送れるように、一人一人に合ったサポートを行っています。これが「特別支援教育」です。

特別支援教育というと、障がいのある子のための教育と思われがちですが、実は、日々の学びや生活の中で少し困っている子供たち全員が対象です。そのため、通常の学級には、特別支援教育支援員が配置され、子供たちの「分かった!」「できた!」を大切にしながら、無理なく、みんなが楽しく学べるように支援をしています。



また、このような教育を通して、子供たちは「人にはいろいろな得意や苦手がある。」ということを知るようにしています。無意識のうちに「できる・できない」で優劣をつける言動がないか注意しながら、友達を思いやる気持ちや、お互いを認め合う心を育てていきます。

このような教育をインクルーシブ教育と言い、個々の違いや多様性を尊重しながら「誰一人取り残さない教育」を目指す考え方です。

そのような考えのもと、特別支援学級は、「できないことを補う」だけではなく、「その子がもっている力を伸ばし、できることを増やす」ことを目指して取り組んでいます。

国分北小学校では、全ての子供が「自分は大切にされている」と感じられる学校づくりをすすめてまいります。そのためには、学校・家庭・地域の皆さまの御理解と連携が不可欠です。

特別支援教育は「学校だけのもの」ではなく、社会全体で支えるべきものです。障がいに対する正しい理解と共生の意識を地域全体で育てながら、三者が協力して子供一人一人の成長を支援していきたいと思えます。